

令和2年度分大船渡市教育委員会事務の点検・評価結果に対する意見

1 事務事業

番号	事務事業名	点検結果
1-1-1	三陸公民館施設管理・運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標「施設不具合対応率」が6割強である理由を記載し、安全で快適に利用できるよう施設管理に努めてほしい。 ・利用者数は、コロナ禍による影響が大きい、かなり減少している。
1-1-2	図書館運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標「貸出点数」と「貸出者数」は、運営事業の状況を示す成果指標として合致していない。より適切な成果指標を設定した方が良い。 ・利用者にとって快適な運営がなされているか、満足度を知りたい。アンケート調査等により利用者の満足度を把握し、市民がより利用しやすい施設になるよう工夫してほしい。 ・指定管理者制度の導入により、レファレンスサービスの充実や司書の安定的な確保が期待できるということだが、そうした専門性の確保が大事である。
1-1-3	博物館施設改修事業	<ul style="list-style-type: none"> ・施設が老朽化しており、改修や改築の必要性を感じる。 ・市内の児童・生徒の利用を促進するため、アクセスのよい場所への移転などもひとつの方法である。
1-2-1	地域社会教育振興事業	<ul style="list-style-type: none"> ・進捗度は「A」評価が妥当である。地域公民館への施設整備補助金は申請のあった地域全てに対し、申請内容に応じて交付されており、住民の活動の場が確保されているからである。 ・施設の維持管理や活動費は、地域住民負担が原則ではあるが、世帯の減少によってどの地域でも資金が不足しており、継続的な支援が必要である。
1-2-2	図書館資料収集保存事業	<ul style="list-style-type: none"> ・図書資料の収集、保存、提供が事業内容であるため、成果指標には、蔵書数も入れた方が良い。 ・「図書館運営事業」とも関連するため、「今後の方向性等」に指定管理者制度の導入についても記載し、整合性を図ってほしい。 ・利用者の要望にもあるが、学生の学習機会の充実と確保を図るため、指定管理者において開館時間の延長を検討してほしい。
1-2-3	博物館教育普及事業	<ul style="list-style-type: none"> ・博物館スクールや教員のための博物館の日などを通じ、学校とのパイプを太くし、児童生徒の興味を高めてほしい。 ・展示の解説文が専門的過ぎて、難解に感じる。展示には紹介ポップなどを用いて、わかりやすく、目を引くものに工夫したほうが良い。 ・学校や児童生徒も含めた利用者アンケート調査を実施して、館内の展示や施設へのニーズを把握し、改善につなげてほしい。
1-3-1	社会教育関係団体活動支援事業	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な市民活動が展開されているため、現状にあった各団体への支援体制のあり方について、相手方と調整をしながら検討を進めてほしい。

番号	事務事業名	点検結果
1-3-2	地域再生支援文化活動事業	<ul style="list-style-type: none"> ・復興事業のため、コミュニティの再生という目的を達成し、令和2年度で事業廃止となったが、参加者の満足度が高く有意義であるため、廃止はもったいなく感じる。 ・令和3年度からは地区連携講座として実施しているとのことであり、是非その充実を図ってほしい。
1-3-3	図書館読書推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標「図書資料の貸出者数」は延べ人数であるため、リピーターが多いはずで、実利用者が増えているとは考えにくい。 ・市民の読書活動の促進に向けて、より多くの市民が図書館を利用するような事業展開が非常に重要である。
2-1-1	学校施設整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標「修繕対応率」から、約3割は対応できていないということである。対応しなかった理由等の記載がほしい。 ・整備不良は学校事故に関わるため、学校、市教育委員会の双方で施設の点検を確実に行き、安全で快適に利用できるように努める必要がある。
2-1-2	教育用コンピュータ整備事業	<ul style="list-style-type: none"> ・電子黒板は、デジタル教科書と一体で使用することでより効果的に活用できるため、デジタル教科書の導入を検討してほしい。 ・ICTの活用スキルは、教員、児童生徒の双方のレベルアップが必要である。学習の効率化、教員の負担軽減にもつながり、タブレットを有効活用して、授業の質を向上させていかなければならない。 ・研修の充実やICT支援員の活用等により、教員をしっかりとサポートしながら、教育のICT化を推進してほしい。
2-1-3	小・中学校適正規模・適正配置基本計画推進事業	<ul style="list-style-type: none"> ・大船渡中と末崎中における統合の経緯は誠に残念だった。学校統合は、当事者である生徒の視点を大切に進めてほしい。 ・複式学級となっている小学校についても、中学校の統合の進捗状況を見ながら、保護者、地域、学校と協議、検討を進めてほしい。
2-2-1	外国青年招致事業	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標「外国語の授業が好き」な割合が低下しているが、小学校の外国語教科化により中学校に行く前に苦手意識を持たないように、興味や関心をうまく伸ばす指導が必要である。 ・語学は継続した学習が大切であるため、小学校から中学校へのスムーズな接続、高校との連携強化を行ってほしい。
2-2-2	ことばの教室運営事業	<ul style="list-style-type: none"> ・対象児童全員が通級できているのか、そうでない場合はどのような理由でできないのか説明が欲しい。 ・通常の学級に在籍したまま、ことばの教室を設置している学校に通うのは保護者の負担が非常に大きく、送迎や在籍校との時間調整という課題を解消するため、訪問指導を検討してほしい。
2-2-3	特別支援教育支援員配置事業	<ul style="list-style-type: none"> ・支援が必要な児童生徒にきめ細やかに対応する特別支援教育支援員の配置は、授業を円滑に進めるうえで非常に効果的である。 ・支援を必要としている児童生徒は増加傾向にあるため、できるだけ学校の要望に沿って支援員を配置してほしい。

番号	事務事業名	点検結果
2-3-1	教育相談員配置事業	<ul style="list-style-type: none"> 成果指標「不登校改善率」は、目標を設定しにくく、頑張っても取り組んでも成果が表れにくい。正しい評価をするために成果指標を検討する必要がある。 ますます重要性が増している大事な事業であり、しっかり取り組んでほしい。
2-3-2	文集「おおふなと」編集事業	<ul style="list-style-type: none"> 学校の負担も考慮し、令和2年度で事業廃止としたが、引き続き、日常的な学校教育の中で、表現力の向上や作文や読書に対する意欲の喚起に努めてほしい。
2-3-3	心の教室相談員配置事業	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の自発的な相談に加え、担任教諭や心の教室相談員による声掛けにより利用が図られ、生徒が心を開ける場となっている。 成果指標「不登校生の人数」は、本来であれば0であることが望ましいはずだが、「利用者数」の目標値も同数で入っており、一定の利用者があるほうがいいのか判断しにくい。
2-4-1	小中学校体育文化活動大会出場費補助事業	<ul style="list-style-type: none"> 部活動は令和3年度から希望参加制となっているが、教員の働き方改革にもかかわっており、生徒の参加状況も知りたい。
2-4-2	就学児健康診断事業	<ul style="list-style-type: none"> 成果指標「就学児健康診断受診者率」について、達成率100%は当然であることから、成果指標とすべきではない。 成果指標「就学に係る指導等を受けた就学児童数」は、多い方がいいのか少ない方がいいのか判断に困るため、成果指標の妥当性を検討したほうが良い。 教育は数字で目標値を立てにくい分野であり、数値が少ないほうが良い成果指標等は注釈を付けるなど工夫をしたほうが良い。
2-5-1	学びを通じた被災地の地域コミュニティ再生支援事業(学校支援事業)	<ul style="list-style-type: none"> 地域コーディネーターは学校と地域をつなぐ役割があり、どちらにも精通している方が望ましい。 地域コーディネーター、図書ボランティアの確保が難しいのであれば、双方の兼務とするなど、コミュニティ・スクールの導入に伴い、人材の確保という面も議論してほしい。
2-5-2	「総合的な学習の時間」推進事業	<ul style="list-style-type: none"> 成果指標「体験学習を実施した回数」、「外部講師招聘延べ人数」とも実績が高く、かなり活発に活動していることがうかがえる。 外部講師招聘による体験学習によって、地域と連携した特色ある活動が推進されており、今後も取組を継続する必要がある。
3-1-1	家庭教育学級	<ul style="list-style-type: none"> 少子化が進む中で家庭教育は重要な事業であり、しっかりと実施してほしい。 成果指標「講演会開催計画数に対する開催数の比」は、比率だけ見ると低いが、コロナ禍にあっても工夫しながら実施しており、具体的な内容を記載した方が評価しやすい。
3-1-2	教育振興運動事業	<ul style="list-style-type: none"> 教育振興運動の実践区や実施事業の内容を知りたい。 学校、地域及び家庭では、家庭教育学級、教育振興運動、地域学校協働活動など類似の活動の区別がつきにくいいため、コミュニティ・スクールの導入に併せて、活動内容を上手く整理をして実施してほしい。

番号	事務事業名	点検結果
3-2-1	成人式の開催事業	<ul style="list-style-type: none"> 令和2年度はコロナ禍により成人式を中止としたが、開催を心待ちにしていた若者の心情を考慮しながら、コロナ禍における開催方法を検討してほしい。
4-1-1	学校体育施設開放事業	<ul style="list-style-type: none"> 閉校した学校のグラウンドや屋内運動場は、学校開放事業からは外れるが、体育施設として利用できるようにしてほしい。
5-1-1	文化財調査研究事業	<ul style="list-style-type: none"> 埋蔵文化財を適切に記録、保存するため、出土品の整理や保管場所の確保を計画的に進めてほしい。 埋蔵文化財出土品を収蔵するため、博物館も手狭になってくるので、新たな展示施設を市街地に整備すれば、需要が高まる。
5-1-2	博物館調査研究事業	<ul style="list-style-type: none"> 資料の登録と受入の違いを知りたい。
5-2-1	文化財保護管理事業	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍により郷土芸能団体の活動が制限されており、保存という観点から事業の進捗度が低くなっているのはやむを得ない。
5-2-2	こども郷土芸能まつり開催支援事業	<ul style="list-style-type: none"> 隔年開催の事業がコロナ禍で中止となり、2年続けて開催できないということは、郷土芸能の保存や後継者育成の観点から影響が大きい。 「今後の方向性等」として効果的な事業運営を検討することだが、こどもたちが伝統文化や地域の良さを引き継いでいく意義のある事業であるため、どのような施策が効果的かよく検討してほしい。

2 基本事業

基本事業名	点検結果
1-1 学習環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標「生涯学習のための施設が整備されていると答えた市民の割合」が前年度より減少している理由を確認したい。
1-2 学習機会の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症の発生時においても多様な生涯学習機会を提供できるよう、事業の効果的な開催方法について検討を進めてほしい。
1-3 学習活動の促進	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍を要因として、市民や団体の自主的な活動が停滞しないように努力していく必要がある。
2-1 教育環境の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・成果として、第一中学校の統合の記述を加えるべきである。 ・学校では、図書の更新や古い図書の処分に苦勞している。図書ボランティアの支援によって、学校図書館の活用や環境整備が円滑に行われており、継続して配置してほしい。
2-2 個に応じた学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・事務事業はごく一部の事業を評価しており、また、基本事業の成果指標との関連が薄い事業を取り上げているため、基本事業の評価の妥当性が判断しにくい。 ・理数離れが言われて久しいが、理科や数学は楽しい教科であることを、各発達段階において子どもたちに伝えるためにも、小・中・高校の教職員の合同研修など連携した取組が必要である。
2-3 豊かで強い心の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標となる全国の学力・学習状況調査がコロナ禍により未実施であるため、評価が難しいが、実態把握の意味でも代替となる市独自の分析データを持つべきである。 ・事務事業は市が実施する事業であり、基本事業は学校の教育指導の中で培う力であるため、関連付けて評価する難しさがある。
2-4 たくましく健やかな体の育成	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標となる全国学力・学習状況調査がコロナ禍により未実施であるため、評価が難しいが、健康面での評価として、児童生徒の各種健康診断の結果を参考として判断する。
2-5 地域に開かれた特色ある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標の結果から、学校は一生懸命に情報発信しているのに、市民側では学校と関わりが薄いこともあり、学校と地域の協力が薄いとの認識であり、このずれを修正していく必要がある。 ・学校と地域・家庭との連携は、今後のコミュニティ・スクールの推進に期待したい。
3-1 地域の体制強化	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年健全育成に係る事務事業は懸命に実施していると感じるが、それが成果指標の市民意識調査の結果に結び付いていない。 ・関連する活動全てに、「青少年健全育成事業」と付けて周知するなど、市民意識につながるPRを工夫していくべきである。
3-2 市民意識の啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標の市民意識調査の目標値と実績に差があり、地域全体で青少年健全育成に取り組む機運の醸成が望まれる。
5-1 文化財の保存と活用	<ul style="list-style-type: none"> ・進捗度の評価は「A」が妥当である。コロナ禍で入館者の減少が見受けられるが、事務事業は適正に執行されているからである。
5-2 伝統文化の継承	<ul style="list-style-type: none"> ・学校統合により、各地区の伝統芸能をどのように伝承していくのか、継承に向けた取組が重要である。

3 総括（施策）

施策名	点検結果
1 生涯学習の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成果指標の市民意識調査の目標と実績の値が大きくかけ離れており、目標値の立て方を吟味した方が良い。 ・ 成果指標は、長期的な目標設定も大切だが、各年度の実績に応じて次年度の目標を設定するなど、実態に見合った目標の達成に向けて取り組むのも一つの方法である。
2 学校教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍により各種調査が実施されなかったため、成果指標の実績値がない項目が多い。評価の材料となる資料を工夫してほしい。 ・ 「課題」として、基礎学力の向上だけでなく、これからの時代に必要になる応用力、活用力の育成も加えてほしい。また、ICT教育について、効果の検証や課題の洗い出しについても言及したほうが良い。 ・ 「課題」として、教職員の復興加配終了後の対応や再任用教員の増加などによる年齢構成の変化など、教職員の適正な配置が重要である。
3 青少年健全育成の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小中学校間の連携に加え、高校との連携をより密にし、青少年健全育成に関する全ての校種間での合同協議の場が必要である。 ・ 地道な活動により、市民意識が高まると考えられる。 ・ 「課題」の「教育振興運動の推進」に関する記述は、学校統合やコミュニティ・スクール導入により状況が変化していることから、「教育振興運動の体制の見直し」に修正すべきである。
5 地域の歴史・文化資源の継承	<ul style="list-style-type: none"> ・ 成果指標について、市民意識調査での実績値が目標に近い状況にあり、伝統文化を大切にする市民意識も高い。 ・ 郷土の文化財や郷土芸能が豊富な地域であるため、文化資源の伝承活動に大事に取り組んでほしい。